令和７年９月８日
一般社団法人名古屋ローンテニス倶楽部
広報委員会

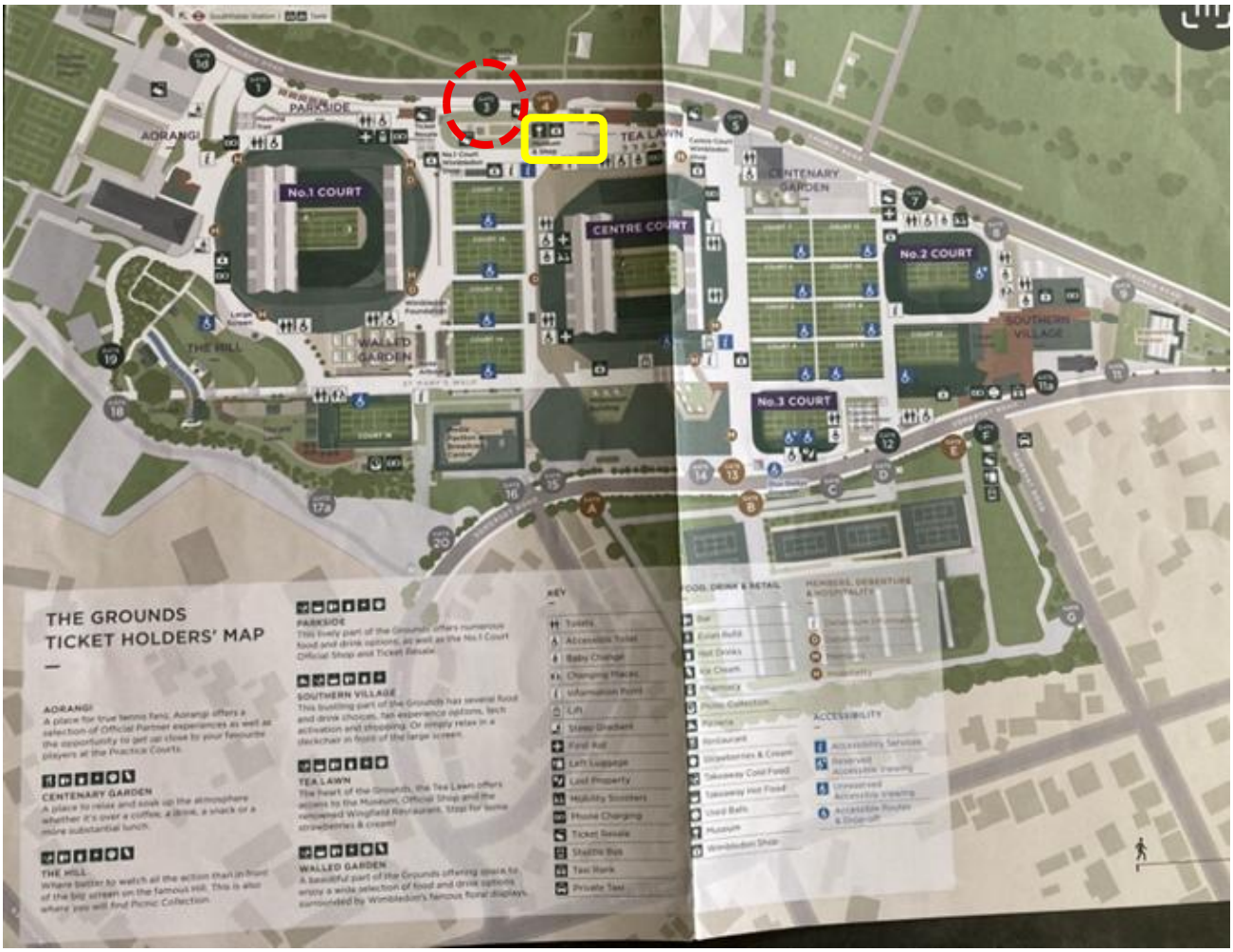
会員投稿「ウィンブルドン旅行顛末記（その２）」

セネガルでの中村さんの妹さんとプロテニスプレーヤーを目指す少年との出会いから始まった今回の心温まるエピソードとウィンブルドンについての最新の現地情報についての名ク会員中村光治さんからの寄稿、その２です。

ウィンブルドン旅行顛末記

～その２（ウィンブルドン会場案内）～　　**中村光治**

最初に会場の全景（MAP）をご覧ください。（MAP 右側が南、左側が北）

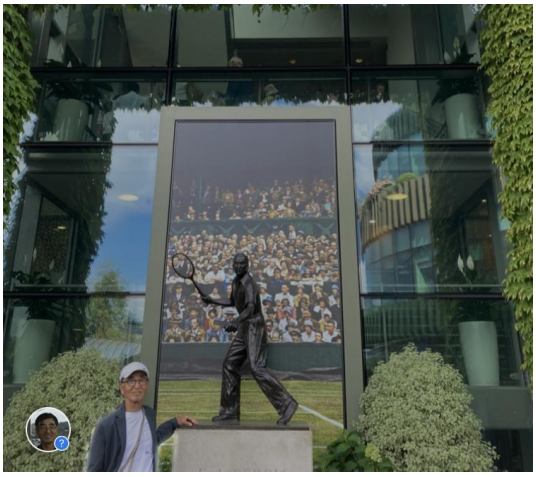


※資料出典：THE GROUNDS TICKET HOLDERS' MAP

3 番ゲート（MAP 上段の赤マーク）から人の流れに沿って進行方向左（南方向）に歩いていくと、すぐ左手にミュージアムとウィンブルドンショップ（MAP 上段の黄色マーク）があり、我々も早速中に入りました。私などは 1 日中ミュージアムを見ていても飽きないほどの内容でしたが、残念ながら撮影禁止でしたので、代わりに中村光治テニスミュージアムの写真を掲載しておきます。（笑い）

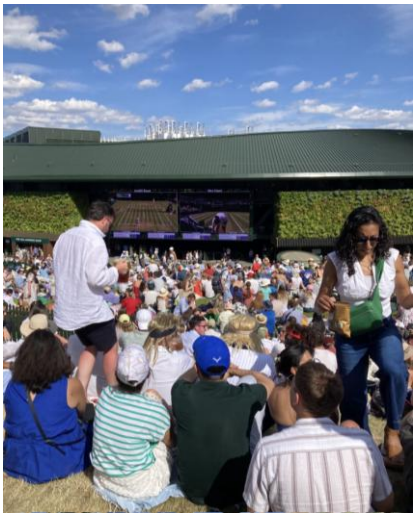
ミュージアムを出てすぐ右手前を見ると甲子園球場の様に見事なツタで囲まれた憧れのセンターコート(観客収容数約 15000 席)が現れます。入口横には 1932 年から 1934 年まで 3 連覇したイギリスの英雄、フレッド・ペリーの彫像があり、記念撮影の定番の場所となっています。

その後、イギリス人で優勝したのがかのアンディー・マレーで、2027 年には彼の彫像も立てられる予定とのことです。



また、センターコートの右横には電光掲示板があり進行中の全コートの試合状況を確認することが出来ます。ここで回れ右をして北の方向に少し歩くとこれも屋根付きの 1 番コート（約 12345 席）が現れます。よく、WOWOW では最初に全景が映し出されますが、この写真を 90 度左回転させた形で映っており、画面下が南で、円形の 1 番コートが大きく映し出されており、その奥（上部）に方形のセンターコートが少し小さく映っていますので見間違えないようにしてください。

1 番コートのすぐ北側には Aorangi Terrace(アオランギ テラス＝観客用の芝生の丘)があり、西側には有名な The Hill(大スクリーン観戦エリア：通称ヘンマン・ヒル)があり、中に入れなかった大勢の人が巨大なスクリーンに映しだされたセンターコートや 1 番コートの試合を楽しんでいました。そして、テラスの東側には Players' Practice Courts 練習コートがあったのですが、事前の調査不足で気が付いたのは帰国してからでした。(涙)



2 番コートは約 4000 席の中規模コートで屋根は無く、主要コートの周辺には飲食やショップが充実しており、出入り口もゲート 13、ゲート 5（サウスフィールズ駅出口)、ゲート 3（行列用入口）など観客動線と混雑緩和を考慮した構造となっていました。

3 番コートは第 4 の主要コートで収容人数約 2000 人、比較的小規模なスタンド構造のため、観客と選手の距離が近く、臨場感の高いコートで、トップ選手の初戦や中堅・若手注目選手の試合がよく組まれ、ダブルスやミックスダブルスも多く開催されます。

それ以外の自由席は 4 番から 11 番までがセンターコートの南側にあり、2 番コートの西側には 12 番コートがあり、約 1736 席の小型スタジアム形式で、稀に当日券で指定席が出ることもあるようで、キューのグラウンドパスによる自由席もあるようです。

センターコートの北側（1 番コートの南側）には 14 番から 17 番までのコートがあり、(13 番コートはありません）各コート約 800～1000 席の簡易スタンドもあり、グラウンドパスで観戦可能です。私のお気に入りは 14 番コートで選手の表情や戦術が間近で見られて迫力満点でした。

18 番コートはヘンマン・ヒルの麓に位置し、ミニスタジアム型コートです。約 1700 席未満の収容で、指定席制ですが一部自由席でグランドパス所有者も入場可です。

そして、何より嬉しいことにリセールという方式があります。これはチケット転売公式サイト「My Wimbledon Tickets」が運営している正規ルートの安全・安心サイトで、試合当日や直前に観客が返却したチケットが再販売される公式制度で指定席のチケットが出ることもあり、オンラインで即時購入可ですが売り切れ必死でこまめなチェックが必要とのことです。

（次回、我々のウィンブルドン観戦・体験レポートに続く）

掲載期限　2025 年 10 月末